

宮城県産ワインの底力！

秋保ワイナリーがゴールドメダルを受賞！

アグリビジネスステージアップ支援事業・中小企業販路開拓総合支援事業

公益財団法人みやぎ産業振興機構（理事長 若生 正博）では、アグリビジネスステージアップ支援事業及び中小企業販路開拓総合支援事業において、(株)仙台秋保醸造所（秋保ワイナリー）のワインの商品開発と販路開拓を支援しております。

この度、支援の中で誕生した白ワイン「リバーウィンズブラン2020」が、国際的なワインコンペティション「サクラアワード2021」において、見事ゴールドメダルを受賞しました。

■「リバーウィンズブラン2020」の特徴

酸が残った状態で収穫したデラウェア（通称青デラ）と完熟デラウェア、ネオマスカットを醸した白ワイン。

輝きのある淡黄色、洋梨やはちみつ、花やハーブのアロマティックな香りに、やさしい甘みと口当たりの良い酸が合わさったフルーティな味わいが特徴で、幅広い料理にマッチする逸品である。



■サクラアワードについて



女性だけが審査する国際的なワインコンペティション。「日本の食事にあつたワインを選ぶ」「ワインの消費拡大」

「ワイン業界で働く女性の活躍を促

す」ことをスローガンに掲げ2014年からスタート。8回目を迎える今年は、186名の審査員が、過去最多の32か国から出品された4,562アイテムを審査。

宮城県のワイナリーでは、このほか「南三陸ワイナリー」と「了美 Vineyard & Winery」が同じくゴールドメダルを受賞している。

■会社概要

代表取締役の毛利親房氏が、東日本大震災を目の当たりにし、「ワインで地域資源をつなぎ、はぐくみ、活性化させたい」との想いから、平成26年3月に設立。平成27年12月に秋保ワイナリーをオープン。

現在は約2ヘクタールの畑でメルローやピノ・グリ、ゲヴェルツトラミネールなど13品種、約7,000本のブドウを栽培。自社ブドウの他、山梨や山形から仕入れた上質のブドウを自社で醸造し、メルロー（赤）、シャルドネ（白）、マスカットベリーA（赤・ロゼ）などを主力とした12銘柄を生産・販売。

同社は「ワインによる地域振興」に力を注いでいるのが特徴。気候風土の表現を意味する「テロワール」と、食とお酒のペアリングを意味する「マリアージュ」を合体した、毛利氏オリジナルの造語「テロワージュ」をコンセプトに、ワインをただ作って売るのではなく、東北の食材・人・風景・伝統文化を掛け合わせて、情報発信やイベント開催により、国内外からの観光客の誘致に力を注いでいる。〈参考：「東北・美酒と食のテロワージュ」 <https://www.terroage.jp/>>